



日本キリスト教団
三軒茶屋教会

三軒茶屋 教会通り

〒154-0024
東京都世田谷区三軒茶屋 1-31-5
TEL/FAX: (03)3418-4933
発行: 三軒茶屋教会

世のための教会



牧師 陣内厚生

皆さんは、理想的な教会をどのように描いていらっしゃいますか。また教会に自分がどう関わっていくべきか、どんなことを期待できるのか、などとお考えになったこともきっとおありでしょう。

日曜日に礼拝に出席すると、そこに不思議な出会いを体験します。それは主イエス・キリストとの出会いであり、主を中心とした交わりなのです。単なる人の集団とは違う、霊的価値観をもった共同体が、まさしく教会のもつ存在意義です。

教会とは、神によってこの世から「召し集められた者の群れ」(エクレシア)という意味をもち、さらには「離散、派遣」(ディアスポラ)という意味ももっています。集められた共同体としての教会の生命は「礼拝」にあり、この世に派遣された教会の使命は「伝道」にあります。私たちが教会の一員とされていることは、このことのために選ばれ、一定の目標に向かって生かされていることにならなりません。

さて、教会の置かれている世界は、

教会にとってどのような意味をもち、教会と世界とはどのような関係にあるのでしょうか。いくつかの型を取りあげて考えられると思います。

①この世を拒否するタイプ この世を悪と罪に満ちた世と見て、教会はこの世の営みに加担せず、できる限り距離をおき自らの聖さを保とうとする隠遁的・閉鎖的な教会。

②この世と妥協するタイプ 信仰の超越的・終末的要素が失われ、この世のものをすべて受容する教会。

③この世の上に立ち支配する教会 基本的に聖俗・三元論的な考えに則り、世俗の領域に対する聖なる領域を優位に置こうとする立場の教会。

しかし、教会と世界の正しい関係のあり方を考えるとき、この両者の上に立つキリストの唯一の主権を認めることから考えたいのです。「わたしは天と地の一切の権能を授かっている」(マタイ二八の一八)と語られた言葉。教会のあらゆる働きの前提は、この主の権威を信じ従うところにあります。この世界はキリストの祝福の下にある「良い」(創世

記一の三一)世界であり、キリストにあって神と和解させられている(エペソ二の一六)ことを認識しましょう。その意味でいうと――

④世のためにある教会 すなわち教会は自らの純粋性や規律ばかりを問うことより、他者のために福音を問う生かすかという大きな課題と取り組まねばなりません。その力の源泉は十字架の主から与えられます。教会は失うことによって豊かにされること、ここによって栄光を受けられるのです。ここに教会の真の道があるのではないのでしょうか。

本号のテーマ「みんなの教会」にようやく辿り着いた感じがします。地域に浸透し、すべての人に親しまれる教会、いろいろな人生に出会い、主キリストを中心に和解の福音を伝えられる教会、世にある苦悩や霊的飢餓に奉仕できる教会でありたいと思います。疲れた者、重荷を負う者が休息を与えられ(マタイ一一の二八)、リフレッシュできる所――「みんなの教会」とは主キリストがすべてを生かし、祝してくださる所です。